

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)」	群馬県立桐生高等学校	全日制 普通科・理数科

## ア 取組状況について

### ① 教育課程

(教育課程編成)

- ・本校は今年度桐生高校と桐生女子高校との統合により、新生「桐生高校」として新たなスタートをきった。1学年8クラス、2・3学年が各10クラスの計28クラス(そのうち理数科は各学年2クラス)と、県内公立校では最大規模の高校となった。
- ・平成29年度から3期目のSSH(スーパーサイエンスハイスクール、以下「SSH」)の指定を受け、今年度最終年度を迎える。2期目までは理数科のみが対象だったSSHの取組を、3期目からは全校生徒に広げた。1年次前半で本校オリジナルテキスト「学びの技法」を用い、探究のリテラシーを習得。1年次後半には市役所や大学から講師を招き、桐生市やそれを取り巻く世界の諸課題について見識を深め、その後グループ研究に入る。2年次が本研究となり、テーマ設定の過程から大学教授や有識者を交え検討会を開く等、質の高い探究活動を行える形を構築してきた。3年間、5単位(2:2:1)で行う「探究」は、本校の特徴の一つと言える。

(授業展開)

- ・今年度から、週34単位、60分授業を実施している。それに伴い、校時表はカセット方式を導入した。新高校設立を機に地域の中核校から県下の共学トップ校へと進路実績を押し上げるべく取り組んでいる。

### ② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・これまで県主導のSUS(ステップアップサポート(授業改善)事業、以下「SUS」)の趣旨に沿って、アクティブ・ラーニングを意識した授業改善を推進し、研究授業、授業研究や授業アンケート等を実施していた。今年度は授業公開週間等、お互いに授業を研究し合う機会を設けていく。また、今年度SUSに替わり県の事業としてスタートした「新しい学びのための授業改善事業」も有効活用し、より一層の授業実践も図っていく。
- ・授業改善の取組と並行して本校グランドデザインの振り返りおよびブラッシュアップのための研修を行ってきた。2校の統合を機にグランドデザイン自体について刷新すべく検討を進め、そのための研修を行う。

(外部人材の活用)

- ・主に教科「探究」において、大学教授や有識者を講義の講師や発表会の指導・講評者としてお招きしている。[スーパーサイエンス講座、桐生学講義、テーマ検討会、校内発表会(ポスター発表)、口頭発表会等]
- ・群馬大学理工学部の教授陣と「群大桐高科学教育検討会」を設立、開催し、その年度の振り返りや次年度に向けての協議検討を行っている。

### ③ 校内組織

- ・本校独自の組織として「資質・能力育成部」という分掌を設置している。この分掌は、SSHのプログラムを含め、生徒の資質・能力育成に関わる教育活動についての計画・実施・改善を担当している。メンバーはSSH主任、理数科主任、各学年の主任及び探究主担当者等で構成され、連携を図りながらその運営に当たり、全校をあげての取組が円滑に実施できるようにしている。

### ④ 施設設備

- ・統合に伴い新校舎も増設された。新校舎には、「Learning Commons」と名付けられた小教室や視聴覚室が配置され、可動式の机・椅子等の配備で、より効果的にアクティブ・ラーニング等の活動を実践する環境が整えられた。また、各教室にはプロジェクターが常備され、Wi-Fi環境も整った。昨年度、県から全校生徒、職員に配付されたChromebookの活用も、今後さらに活発になっていくと考えられる。

### ⑤ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法

- ・SSHでは、昨年度6月に公表された中間評価が、上から2つ目のランク(全国で14校)であり、それまでの取組に対してある程度の自信と手応えを感じることができた。県内SSH校4校(前橋高校、高崎高校、前橋女子高校、本校)の情報交換会も定期的に関き、各校の取組・実践の共有を図っている。
- ・昨年度は、教育情報誌(ベネッセ:VIEW21、河合塾Guideline等)で特集され、本校の取組を全国に発信することができた。

## イ 今後の課題

- ・理数科の特色をいかに出していくか、普通科との差別化をどう図っていくかが課題と言える。
- ・コロナ禍の状況で生徒の学びを保障するためのツールと手段の共有を進めることが求められる。